

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年2月28日

事業所名 デイ支援センターみんなの力

		チェック項目	はい(%)	いいえ(%)	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	80	20	・利用人数に合わせて部屋を入れ替えて支援している。	・療育をする際に十分な広さがなくて活動が制限される。
	2	職員の配置数は適切である	80	20	・個別対応が必要な子がいる場合には児童職員に手伝いをお願いしている。	・加配が足りずに困ることがある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	66.7	33.3	・当日の気づきなど、療育後に担当職員同士で振り返りを行い情報共有している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100		・ご家族向けアンケート結果を受けて、ケース記録や連絡帳への記入の仕方など工夫している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	66.7	33.3		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100		・毎月支援会議を行い資質向上に努めている。	・研修の時間が研修内容によって異なってくるので、参加できないこともあるところが課題だと思う。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100		・年度当初にアセスメント用紙を記入していただき支援に活かしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100		・支援会議を通して活動プログラムの立案を行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100		・職員同士がアイデアを出し合い活動の充実を図っている。 ・季節の製作等取り入れプログラムが固定化しないよう工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100		・平日に実施することが難しい食育や地域活動を長期休暇に取り入れている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100		・発達に合わせてクラス編成をしているが、子どものコンディションに合わせて対応している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100		・担任を中心として支援内容や活動内容など、支援にあたる職員全員で打ち合わせを行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100		・可能な範囲で振り返りを行っている。 ・気づきシートの活用。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100		・業務日誌等に、支援内容や活動を細かく記入し、検証、改善に繋げている。 ・普段と異なる子どもの様子があれば、記録に残している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100			・児童発達支援管理責任者が参加している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100			・複数の学校が関わっている為、行事予定や下校時刻についてはご家族から連絡をいただいている。 ・送迎時に学校職員と情報交換している。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100			・年度初めに児発職員と引継ぎを行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100			・児童発達支援管理責任者が相談員と共に連携会議を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	33.4	66.6			・色々な人と関わる機会は沢山あっていいと思うが、感染対策上難しいところもある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	66.6	33.4			・児童発達支援管理責任者が参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100				・連絡帳を活用している。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		100			・コロナ禍になってから開催していない。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100				・契約の際に説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100				・児童発達支援管理責任者が相談に応じている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100				・家族懇談会を開催している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100				・苦情等あった際には職員間で対応を話し合い、対応策が決定した時点で周知を行っている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100				・お便りを毎月発行している。
	35	個人情報に十分注意している	100				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100				

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	66.6	33.4		・緊急時や感染対応については周知されているが、防犯に関しては十分に周知されていない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	66.6	33.4	・定期的に総合防災訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100		・虐待防止の研修を受けた職員が他職員に対し伝達講習会を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100		・アレルギーのある児に対しては医師の指示書を参考に職員間で周知をしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100		・ヒヤリハット事例があった際には用紙に記入し全職員が目を通せる場所へ貼り情報共有している。	